

2021年1月（第3回）

FD・SD研修 実施報告

群馬医療福祉大学 FD・SD 委員会

2020年度第3回研修は、昌賢学園恒例の「年始の会」に引き続き実施した。未だ収束することの無いCOVID-19拡大の渦中での実施であるため、3キャンパスに分かれてのZoomによる研修となった。

第3回研修会

■研修テーマ

研修Ⅰ 「新型コロナウイルス感染症対策に向けた藤岡キャンパスにおける取り組み」

看護学部 奥野 みどり 先生

研修Ⅱ 「コロナ禍における本学の遠隔授業の成果検証と次年度に向けて」

教務カリキュラム委員長（リハビリテーション学部） 古田 常人 先生

■日時・場所・参加者

日時：2021（令和3）年1月6日（水） 15：00～16：00

会場：【配信場所】群馬医療福祉大学前橋キャンパス（社会福祉学部・短期大学部 教職員）

群馬医療福祉大学藤岡キャンパス（看護学部 教職員）Zoom 参加

群馬医療福祉大学本町キャンパス（リハビリテーション学部 教職員）Zoom 参加

参加者：群馬医療福祉大学・群馬医療福祉大学短期大学部 教職員

■目的：2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大学教育の現場では過去に経験したこと

のない様々な対応を迫られた。今後も続くと思われるこの災禍の渦中であって、教育の現場における
処し方を考えていかなければならない。そのための研修のねらいは以下の通りである。

研修Ⅰ 大学における感染症対策を改めて見直し、今後の感染予防に備える。

研修Ⅱ 遠隔での授業に関する学生アンケート（2020年11月下旬～12月上旬実施）の結果検証を

行い、今後の工夫・対応に活かす。

■内容：

研修Ⅰ 「新型コロナウイルス感染症対策に向けた藤岡キャンパスにおける取り組み」

看護学部で実施している「新型コロナウイルス感染症対策プロジェクト」（2020年7月15日立ち上げ）についての概説（プロジェクトチームの構成員・役割）に続き、プロジェクトメンバーの具体的な活動についての説明が為された。それらは、授業時や昼食時の感染防止に対する意識付けや、感染症発生時の対応に関する具体的な対処法などであった。今後は、平常時からの体調記録をつけることはもとより、自ら考えて感染防止対策ができる学生の養成が肝要であること、それに伴う看護師としての資質・倫理観の養成も必要であることが述べられた。

研修Ⅱ 「コロナ禍における本学の遠隔授業の成果検証と次年度に向けて」

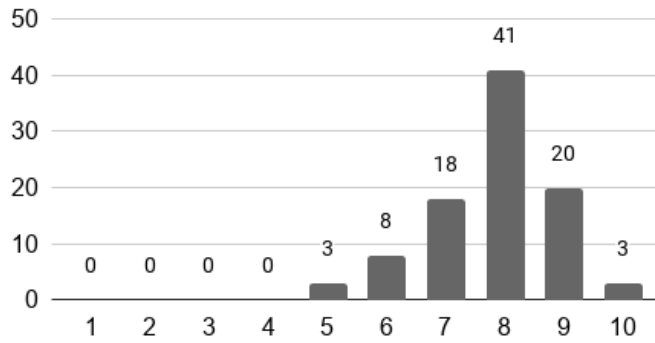
学生からのアンケートの集約結果や意見をふまえながら、遠隔授業のメリット・デメリットについて講じられた。学生からのネガティブな見解として、教員の技術の低さを指摘するものや、意欲が低下するとする問いかけ方等の具体例も示され、講義を行う際の反省・問題点が明らかにされた。また、Zoom双方向型とオンデマンド型それぞれにふさわしい授業内容や、成績評価の妥当性を得るための技法に関する説明も含まれ、遠隔授業を通しての教育課題の認識につながった。

■成果

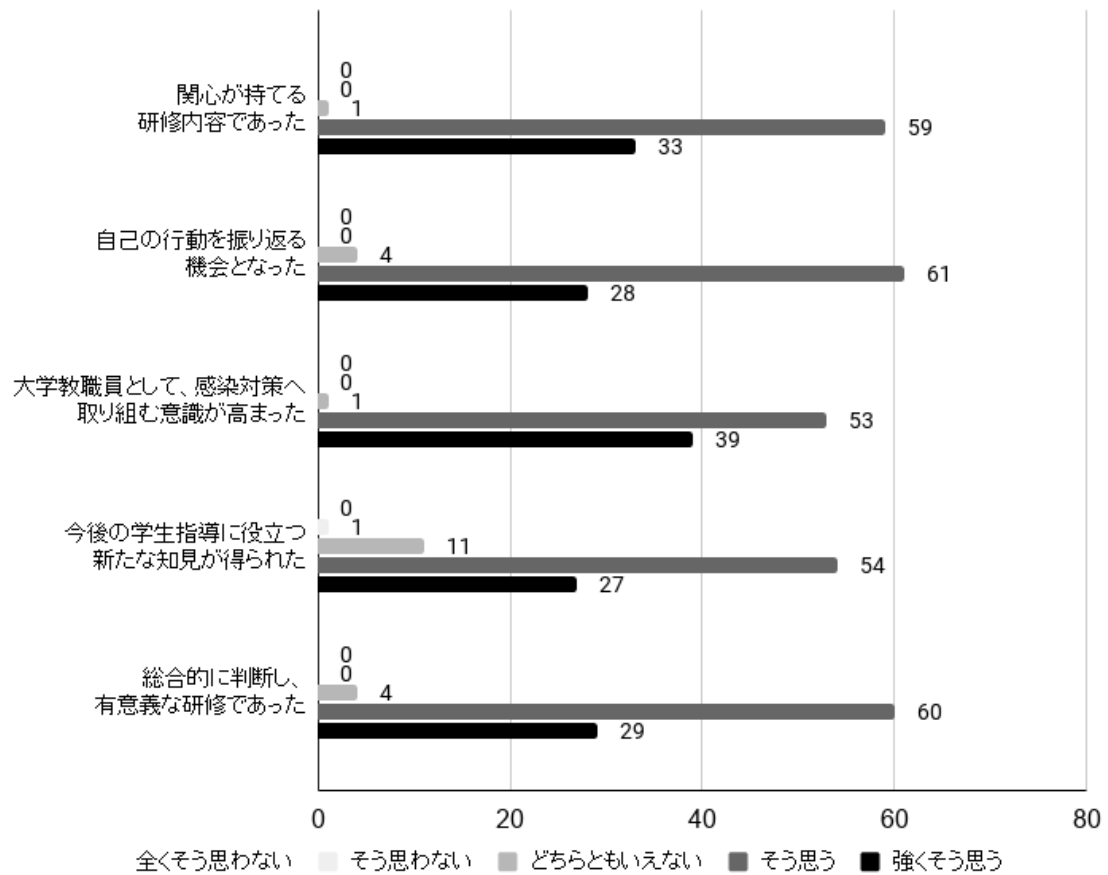
1. 参加者概要（リフレクションシート回答）

| | 社会福祉学部 | 医療技術学部 | 短大 | 看護学部 | リハビリ学部 | その他未記入 | |
|----|--------|--------|----|------|--------|--------|----|
| 教員 | 23 | 3 | 2 | 17 | 12 | | 57 |
| 職員 | 17 | 0 | 1 | 3 | 2 | | 23 |
| 合計 | 40 | 3 | 3 | 20 | 14 | 14 | 94 |

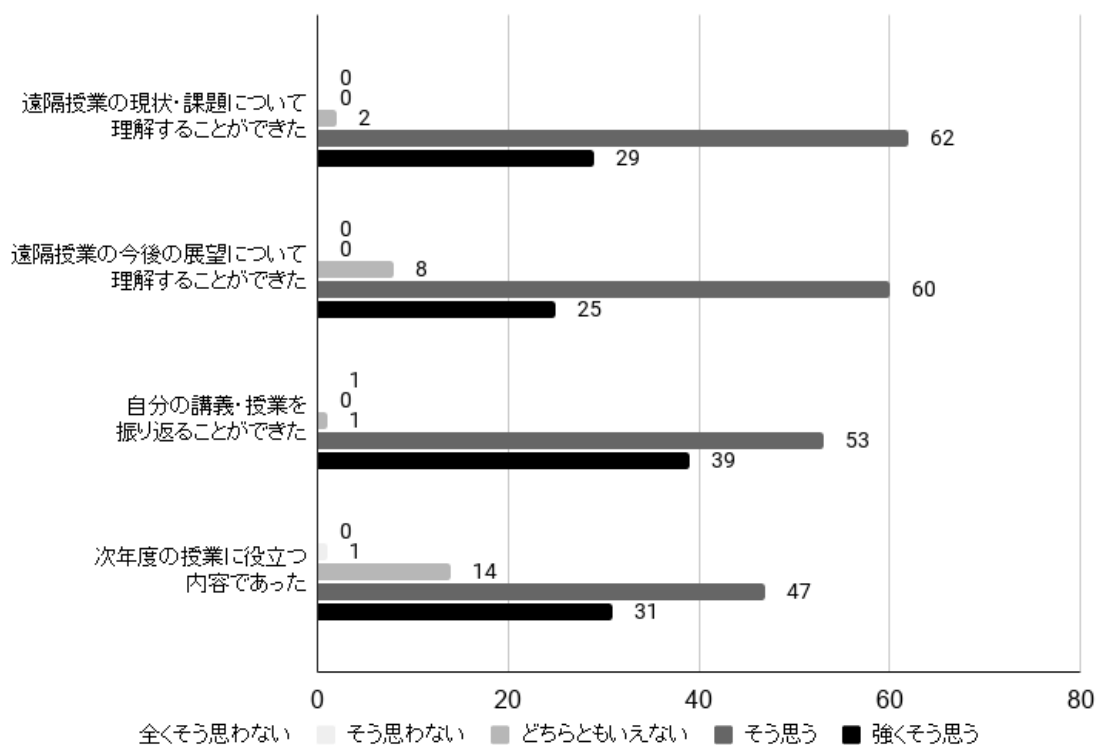
2. 研修会の満足度（人）



3. 研修 I 「新型コロナウイルス感染防止対策に関して」の講話内容について



4. 研修Ⅱ「コロナ禍における本学の遠隔授業の成果検証と次年度に向けて」の講話内容について



5. 研修を受けての意見・感想

| | | |
|-----|---|---|
| 研修Ⅰ | 看護学部での対応を知ることができて良かった。看護学部での感染症対策はとても参考になった。 | 6 |
| | 新型コロナウイルス対策について改めて考えさせられ、振り返る良い機会となった。再確認できた。 | 5 |
| | すべてのキャンパスで共有しての取組を今後は目指して欲しい。全学的な取り組みへの発展的具体的な提言や、他学部での取り組みとの建設的な対照を期待したい | 3 |
| | 各自が意識を高め対応することが大切だと思った | 3 |
| | コロナウイルス感染防止については、即時の適切な対応が不可欠である。早期発見と対応が必要。 | 2 |
| | 教員だけでなく、学生自ら考え行動できるよう指導にあたりたい。 | 1 |
| 研修Ⅱ | 自分の授業を振り返る良い機会となりました。自分の授業改善につながるので参考になった。 | 8 |
| | 遠隔授業でのメリット・デメリットがデータとして確認でき有効であった。 | 5 |
| | 遠隔授業における学生の意見が分かり、参考になった。 | 4 |
| | 機器操作に慣れていかななくてはいけないと思った。自身のパソコン技術とZOOMでの授業方法を磨く必要性を強く感じました。 | 4 |
| | 遠隔授業の課題について、教員・学生側の課題解決に向けた具体的な提案を期待したい。 | 2 |
| | GPAとの関連についてももう少し具体的に知りたい。 | |

| | | |
|----|--|---|
| | 遠隔授業の成果については非常勤教員にも示す機会があれば良いと思いました。 | |
| | もっと時間を取って詳しく知りたかった | |
| | 今後、遠隔でのスクーリングや代替実習に関してより充実した内容にしていく必要性を感じました。 | |
| | 対面でできないような工夫を取り入れながら、新たな方法を模索していく必要があると感じた。 | |
| | 対面にしたとしても、全員に一斉で行うことができず、今までのような学習効果は望めないと思った。 | |
| | 他の先生方の具体的な WEB 講義の工夫やアイデアなども教えていただけると助かります。 | |
| | オンデマンド方式や ZOOM での講義は公開講座や高大連携授業等にも応用できると感じました。 | |
| | この 1 年で、教員間の zoom 等のツール活用に関するリテラシーに格差ができており、早急に効果的に実施すべきと思います。すべての教職員が積極的に zoom 等を使用し、学ぶ機会を設けていった方が良いと思います。 | |
| | 教員側の機器操作や環境が満足度低くしてしまう場合、音声や共有の問題なども、その都度、学生に確認をすれば未然に防げる問題だと感じました。 | |
| | オンデマンド配信が学修効果を高めるとの結果がありましたが、簡易式 YOUTUBE スタジオを活用していただければと思います。 | |
| | オンデマンド、ZOOM 録画の活用で反復することが有効とわかりました。 | |
| | 特にマイナス意見に関しては先生方個人で改善できる点や、大学全体で協議すべき点等様々かと思えます。マイナス意見を一つ一つ改善することで大学全体の満足度が向上し、入学生の獲得にも繋がると思います。今後もオンライン授業が継続されると思います。委員会を筆頭に PDCA を進めていただければ、大学の魅力に直結すると思えます。 | |
| | 学生も、ZOOM等の操作技術により習熟する必要がある | |
| | 授業満足度等が遠隔になっても大きくぶれていないとすれば、本学の取り組みは、ある程度の評価してもよいと思う。 | |
| 全体 | タイムリーな内容をご講義頂きありがとうございました。 | 8 |
| | 資料を配布して頂けると有難いと思いました。メールで事前に資料を配信していただきたい。 | 6 |
| | 大変勉強になりました。有意義な研修でした。貴重な情報共有であった。 | 5 |
| | 質疑応答の時間が欲しかった | 3 |
| | 今後の学生指導に役立てたい。今後も学生のために良い授業、指導ができるよう考えていく。 | 2 |
| | 今回のテーマについて、もう少し早い時期に開催いただけたらよかったです。 | |
| | 身近なテーマ設定で、共感できることがらでした。有意義な研修でした。 | |
| | 遠隔で参加する教職員にも理解しやすいよう工夫がされていてよかったです。 | |
| | 内容が研修ではなく発表となっていた。 | |
| | コロナ禍においてこのような研修を開催していただきありがとうございました | |
| | 教員の遠隔授業への環境整備（ハード・ソフト両面）について積極的に考えてほしい。 | |

| | | |
|--|---|--|
| | 今後、この内容を実行しての影響などの話し合いを持つことで全教職員の意識が高まるのでは。 | |
| | コロナ禍についての大学の在り方を考える良い機会をいただきました。 | |
| | できれば他のキャンパスで生じている課題や解決策等、また共有できる機会があるといい。 | |
| | 可能な会議・研修会はオンライン開催にし、オンラインツールへのリテラシーを高める必要がある。 | |

6. 次回研修に向けての改善点、ご要望等について

| | | |
|-------------|---|---|
| 反省・改善点 | 事前に資料をいただけるとありがたい。資料を送ってほしい。 | 5 |
| | スライドの文字を大きくしていただきたい。グラフや図を見やすく。 | 7 |
| | 教職員間でディスカッションできたらより良い内容になると思います。 | 2 |
| | 質疑応答の時間があればよかったかと思います。 | 2 |
| 今後の研究内容について | 各教員が具体的にスキルアップできるような（zoom の操作等）内容も必要だと思う。電子黒板の多様な活用方法について、プログラミングの基礎などの研修があるといいと思います。 | 4 |
| | 新型コロナウイルス感染症に限らず、感染症対策（ノロやインフルエンザなど）について。感染症対策の演習 | 3 |
| | 社会福祉学部でのグループアウトセッションの取り組みをお伺いする機会があれば | 1 |
| | SA について教えていただきたい。 | 1 |
| | コロナ禍が長期化した場合、どのように対応していくのか、より具体的な研修を望みます。 | 1 |
| | 今後もこのようなタイムリーな話題を取り上げて企画していただけると、幸いです。 | 1 |
| | 次回は研修にしてほしい | 1 |
| 研修会について | 社会福祉学部もリモートでの研修にさせていただける方がよいかと思いました。 | 2 |
| | zoom を使った FD 研修には利点も感じました。今後も遠隔での参加をさせてほしい。 | 2 |

■課題

リフレクションシートの自由記述欄の内容から、今回取り上げた研修Ⅰ・研修Ⅱそれぞれを受けての課題を見出すことができた。

まず、研修Ⅰに関しては、コロナ禍下にあり時機がちょうど良い折であったため、看護学部における対策から多くを得たとされている。一方、研修で紹介された内容を（看護学部だけでなく）全学部・学科で共有するべきであるとの意見もあり、今後は歩調を合わせるための研修の機会とすることが期待される。

次に研修Ⅱについては、COVID-19 対策として今年度初めて遠隔授業を経験し、授業実施も成果について懸念している教員が多い中での講座であった。そのため、何ヶ月かの間遠隔授業を受けてきた学生からのアンケートを分析した内容は信憑性が高く、そこから導き出された問題点は早急に解決しなければならないことがらである。例えば、Zoom の様々な機能を使って有用な授業を行うためのテクニックそのものや、どのように実践すれば良いかの模範例の提示などであろう。今後の研修においてはこの課題をふまえ、教員の遠隔授業に資する内容を取り上げたい。



学長挨拶・訓話



研修Ⅰ



研修Ⅱ